科目ナンバリング	U-LAS06 20010 LJ41						
授業科目名<英訳>	刑事裁判入門 Introduction to Criminal Procedure			担当者所属職名・氏名	法学研究科　教授　　遠藤　邦彦		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

新聞、テレビ等で日々報じられる犯罪捜査や刑事裁判に関する最新の話題にも言及しつつ、施行から15年余りになる裁判員裁判の運用状況や課題も含め、刑事裁判手続の概要を講義する。

[到達目標]

わが国における犯罪捜査、刑事裁判に関する手続と運用の実情を正しく理解し，関心を高めることを目標とする。
先般の法改正により、１８歳以上の有権者は裁判員及び検察審査員の有資格者となった。大学生も裁判員や検察審査委員に選任される可能性があることから、その意味からも、刑事裁判に関する正しい理解を深めることが期待される。

[授業計画と内容]

犯罪捜査や刑事裁判に対する興味・関心を高めるため、報道されたこれらに関連する最新の話題や裁判例についても随時取り上げて説明するとともに、刑事訴訟手続における以下のテーマとそれに関連する具体的な事例について、受講者との意見交換も交えた授業を予定している。
以下のテーマについて、それぞれ1～2回の授業を予定しており、授業回数はフィードバックを含め１５回とする。

1　序章（刑事裁判の扉）
2　刑事裁判制度の概要
3　犯罪捜査
4　起訴・不起訴の処分
5　刑事裁判における基本原則
6　刑事訴訟における審理・判決の対象
7　公判前整理手続、公判手続
8　証拠法
9　事実認定と量刑
10　裁判員制度
11　犯罪被害者
12　少年事件の動向と処遇

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】
課題①②（小レポート・各３０点）、課題③（小レポート・４０点）で評価する。レポートは、問題点の把握、分析力、論理的な理解力、表現力等を評価の視点とするが、課題③については授業への参加姿勢（出席状況等）も考慮する。
課題①は、捜査の手法に対する評価と獲得した証拠の証拠能力に関するもの、課題②は、事実認定に関するもの、課題③は、本授業のまとめに関するものを予定している。

刑事裁判入門(2)へ続く↓↓↓

刑事裁判入門(2)

なお、提出したレポートは返却しない。

[教科書]

使用しない
教科書ということではないが、法律科目であるから「六法」は必携である。ただし、種類が多いので、第１回の授業の中で選択に関するアドバイスをする。

[参考書等]

（参考書）
三井誠＝酒巻匡 『入門刑事手続法［第９版］』（有斐閣，2023）
上記以外の参考書等は授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に予習し、復習すること。そのほか、授業中にその都度指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

授業中、分からないことがあれば、積極的に質問することを期待する。

[主要授業科目（学部・学科名）]